

氏名	阿 部 熊 重		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	乙 第 5 0 1 号		
学位授与の日付	昭和47年 6 月30日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)		
学位論文題目	ネコの視床後腹側核の視床内結合に関する実験解剖学的研究		
論文審査委員	教授 大塚長康	教授 大内 弘	教授 西本 詮

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

著者はネコの視床後腹側核の定位的破壊によって起こる軸索変性 Nauta-Gygax 法によって鍍銀した連続切片について研究し、つぎのような所見を得た。

- (1) 視床後腹側核は後内腹側核と後外腹側核に分かたれ、その部分によって多少とも視床内結合を異にする。後内腹側核の外側部は核内線維のほか、主として他の腹側核（内側下核を含む）、後外側核、膝上核、背内側核、広義の髄板内核などに線維を送る。
- (2) 後内腹側核内側部は外側部と原則的に同様の視床内結合を有するが、特に異なる点は内側部から出る線維の一部が内側中心核および菱形核を貫いて交叉し、反対側の正中中心核、東旁核および後内腹側核の内側部に至ることである。
- (3) 後外腹側核は後内腹側核に比し髄板内核（広義）、背内側核などへの線維が少なく、これに反し、下枕核、外側および内側膝状体への線維が多い。

(岡山医学会雑誌 第84巻, 3, 4号(昭和47年3月発行)に掲載の予定)

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、ネコの視床後腹側核の定位的破壊によって起こる軸索変性を Nauta 鍍銀法によって検索し、特に視床後腹側核の視床内線維結合を中心に研究したものである。その結果、これまであまり詳細に検索されていなかった後腹側核と視床内の諸核との線維連絡について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。